

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成20年度 国土交通大臣賞 受賞	受賞者名
	秋田県建設交通部建設管理課技術管理室 （現：秋田県建設部技術管理課）
	所在地
	秋田県秋田市
	受賞テーマ
	官民協同による溶融スラグ有効利用の取り組み
<p>1. 活動継続 あり</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶融スラグ入りコンクリート製品の製造技術、製品の性能・安全性や使用基準の確立を目的として立ち上げた「秋田県リサイクルコンクリート製品研究会」は、各技術が確立され、全会員が認定を取得、製品暴露試験での安全性も確保されていることなどから、本会設立にあたっての目的と役割を達成したと判断し、平成 23 年度に解散している。 平成 26 年度現在、リサイクル認定を取得している県内コンクリート 2 次製品事業者は 12 社 15 工場。 全ての認定事業者が、現在も溶融スラグ入りコンクリート製品の普及に積極的に取り組んでいる。 	
<p>2. 活動の広がり あり</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 R の普及・啓発活動として、認定事業者と連携を取り、各種イベントなどを通じて県民に広く秋田県認定リサイクル製品の P R とその利用推進を行っている。 	
	
<p>イベントにおける県認定リサイクル製品の P R</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 溶融スラグの発生量は年間約 11,000 t。平成 19 年度に認定リサイクルコンクリート製品に使用した溶融スラグは約 4,500 t で発生量に対する割合は約 40%であったが、平成 25 年度には約 7,500 t（19 年比約 170%）の溶融スラグを使用し、発生量に対する使用割合は約 70%まで増加している。 また、平成 19 年度の認定リサイクルコンクリート製品対象品目の調達実績は 57 品目であったが、平成 25 年度には 105 品目（19 年比約 185%）まで対象を拡大している。 認定事業者（製品製造）、溶融スラグ供給者（材料）との連携により、製造技術の向上、品質の安全性が確立されており、県の公共工事へも地域・品目によってではあるが、原則使用が明示されている。 このほか、県認定リサイクル製品の普及・啓発活動の効果もあり、溶融スラグ利用拡大に繋がっている。 	



秋田県認定リサイクル製品の普及・啓発活動

3. 活動の進化 あり

- 新たに、県内火力発電所から発生する石炭灰（フライアッシュ）を利用したコンクリート製品の使用に際しての品質・運用基準の作成に取り組んだ。
- 具体的には、県内の認定リサイクル事業者と安全性、品質等の各使用基準案の協議を重ね、学識経験者の意見も取り入れながら、平成24年9月に秋田県フライアッシュ混合プレキャストコンクリート製品使用基準を定めている。
- なお、フライアッシュ混合プレキャストコンクリート製品の出荷実績は平成25年度が約11,300t、平成26年度は約14,300t（いずれも製品重量）と順調に推移している。

4. 今後の計画

- 県内火力発電所から発生する石炭灰（フライアッシュ）については、すでにフライアッシュ混合生コンやフライアッシュ混合プレキャストコンクリート製品などに利用されているが、リサイクル推進の立場からもさらなる利用拡大が望まれている。
秋田県リサイクル製品の認定及び利用の推進に関する条例に基づき、今後ともリサイクル製品の認定・利用拡大に努めてまいりたい。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

国土交通大臣賞

受賞者名

●秋田県建設交通部建設管理課技術管理室

●秋田県リサイクルコンクリート製品研究会

所在地

秋田県秋田市、秋田県大仙市

受賞テーマ

官民協同による溶融スラグ有効利用の取り組み

平成18年度に循環型社会形成への寄与を目的とし秋田県内のコンクリート二次製品会社により発足した「秋田県リサイクルコンクリート製品研究会（以下R研究会）」と秋田県建設交通部建設管理課技術管理室（以下県技術管理室）は、秋田市のごみ溶融施設から発生する溶融スラグの利用拡大を目的に協議を重ねた結果、秋田県認定リサイクル製品である溶融スラグ入りプレキャストコンクリート製品の一部を、平成18年度から県発注工事で段階的に原則使用することとした。

また、秋田県では、「秋田県リサイクル認定制度」の認定にあたって、溶融スラグをコンクリート材料に使用することで耐凍害性の低下が懸念されたことから、凍結融解試験の合格を求めることとした。これを期に、R研究会と県技術管理室では、溶融スラグ使用に関する諸課題の解決や製造技術・品質の向上について、連携をとりながら取り組んできた。

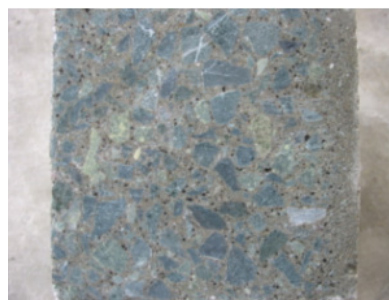
その結果、溶融スラグの使用量は、平成19年度に発生量の約4割まで拡大し、平成17年度から平成19年度までの3年間で、12,446tの溶融スラグが有効利用された。また、平成19年度末時点で、秋田県内の溶融スラグを使用している16事業者すべてが「秋田県認定リサイクル製品」の認定事業者となり、この16事業者20工場が凍結融解試験に合格し、公共工作物としてのプレキャストコンクリート製品の品質向上に努めている。



溶融スラグ



溶融スラグ入りプレキャストコンクリート製品



切断面（黒い点が溶融スラグ）